
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 61

2010.6.16 (水)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の日本の海」 鹿児島県種子島鉄浜海岸

鹿児島島の南、黒潮が直接海岸を洗う種子島の北東海岸に鉄浜海岸はある。鉄浜という名は、



浜の砂に含まれる多量の砂鉄に由来する。島の北半分は西之表市だが、東海岸は人口も少ない。種子島といえばサーファーのメッカ。ハワイのワイキキと同じような波が楽しめる。しかし、この日の種子島は強い西風が吹き、鉄浜海岸は

おだやかな波で、サーファーたちもやや拍子抜けだった。種子島にはいくつも素晴らしい砂浜が残っている。後背地にコンクリート護岸がない自然海岸がまだたくさん残っている。種子島に住み着いている若者が多いのも、この素晴らしい海のせいだろうと思う。

(西之表市鉄浜 (かねはま) 海岸にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の日本の海」 鹿児島県西之表市鉄浜海岸

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する放送などの情報
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 事務局便り
6. 編集後記

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【国際】

●終焉の危機を迎える漁業 世界中で漁業資源が激減

世界の海で漁業資源が大幅に減少し続けている。この1世紀ほどで、漁業は大きく転換した。帆を張って網を流していたトロール船は、高性能エンジンや高度な精密魚群探知機を備え、軽量の網を使い、船の位置を数 cm の精度で測定できる GPS を持ち、魚一匹一匹を判別できるほどの精度を持ったサイドスキャンソナーで、まるで潜水艇から目で見ると同じように海底の様子を知ることができ、巨大な冷凍庫を持った船で魚を捕ることができるようになった。

かつては、漁業で魚が枯渇することはないと言われていた。なぜなら、魚が少なくなると同じだけ漁獲するのにコストがかかりすぎて、漁業が成り立たなくなるから、そうなる前に市場を通して事実上の漁獲制限がかかるからだというものだった。ところが現在ではそれが通用しなくなった。昔なら獲ることができなかった岩陰の魚の群れさえも、魚群探知機で正確に魚と網の位置を見て、一網打尽にすることができるからだ。かくて乱獲で漁業資源は激減している。

鯨類も同じだ。手こぎのボートで乗り出して、銚で鯨を捕っている間は、捕鯨による鯨の絶滅の心配はなかった。しかし、銚の砲撃による捕鯨が始まり、事情は一変した。さらに最近では GPS やレーダーの高性能化で、鯨の発見精度は格段に上昇した。かくて鯨類の絶滅への道が始まった。おそらくミンククジラなど比較的多産な鯨なら、今でも昔ながらの捕鯨方法を踏襲すれば、捕鯨を続けても問題はないだろう。日本伝統の捕鯨を守れというなら、伝統的な捕鯨方法も守って欲しいものである。

イギリスの海でも、漁業資源は大幅に減り続けている。最近の研究によると、現在のイギリス海域のトロール船は、ビクトリア朝時代の帆船型底曳き網漁船の17倍の労力を注がないと昔と同じ漁獲量は期待できないという。ビクトリア朝時代の漁船は今のハイテクト

ロール船よりも多くの魚を獲っていたことになる。今の漁船にもっとも必要な機械は、タイムマシンだという冗談も聞かれるほどだ。

イギリスの漁獲量の記録によると、記録のある 1889 年以降、漁獲技術の向上によって 20 世紀半ばまでは増加の一途であった。その間、漁船は大型化し、高性能な漁船開発への投資が増えていった。漁獲効率は大幅に上昇した。第二次大戦後、トロール船の漁獲量は減少に転じた。乱獲が原因だろう。現在では、努力量あたりの漁獲量は 94% 減少したことが分かっている。正確に資源量の減少を反映した数字ではないが、資源量の減少はほぼそれに比例しているだろうと思われる。

漁獲資源が減少しているのはイギリスだけではない。アメリカ海洋大気局 (NOAA) の研究者は、「大西洋の西側、北海、バルト海はもちろん激減している。地中海はもっと深刻だ」と述べている。

カナダのニューファウンドランド島の沖合はタラの延縄漁で有名な漁場だ。200 年以上も続いたこの漁場も、終わりが近づいている。タラが激減し、そのために政府は厳しい漁業制限を繰り返している。10 年間に 2 度も乱獲による漁場閉鎖が繰り返された。翌年には解禁されたが、厳しい制限がついた。漁師は船を売り、漁業をやめる道を探り始めているが、やめる漁師が多くて、船は売れない。それでもタラ漁を続ける人はいる。彼らはときに、大漁を経験する。1 週間の制限漁獲量を一日で釣り上げる人も出ている。だから漁師は、タラはいるのに政府が漁獲制限をするから、われわれは生きていけないと不満を漏らす。「漁業危機なんて大げさだ。タラが枯渇している兆候は見られない」と。

しかし、研究者は「確かに場所によってはパッチワークのように漁獲量の回復が見られているところもある。でも分布域全体の幅がきわめて狭くなっており、資源量の減少は明瞭だ」と説明する。自分の漁場だけを見ている漁師には全体のことは分からないというのだ。

減少の原因は、第 2 次大戦後になって魚の加工場を備えた大型トロール船が現れ、何百万トンという魚を底曳き網でさらって行ってしまったためだ。延縄漁業だけならもう少し資源の減少は止められたかもしれない。今では漁獲制限があって大型トロール船はここでは操業が禁止されている。でも、鱈の漁獲制限を大幅に緩和すれば、すぐにトロール船が舞い戻ってくるのは確実だ。このあたりの漁村はいずれも廃墟になりつつある。

●EU が大西洋クロマグロを今年度禁漁に

EU (欧州機構) は、今シーズン地中海と東大西洋のクロマグロの漁獲を禁止することを決めた。ワシントン条約締約国会議での大西洋クロマグロの禁輸が日本などの反対で否決されたのを受けて、欧州の独自の判断で禁漁とすることを決めたものである。理由として「割り当てられた漁獲量に達したため」としている。EU に加盟していない国の漁獲は制限できない。EU の声明によると「脆弱な大西洋クロマグロ資源を保護し、資源回復を達成する必

要がある。乱獲を防ぐために、あらゆる必要な措置を執る」としている。日本は地中海と大西洋のクロマグロ漁獲量の8割を輸入している。

●過去最大の原油流出事故 メキシコ湾の野生生物に影響深刻

4月20日にメキシコ湾の石油掘削施設が爆発し、大量の原油が流出し始めた。現在でも毎日1万バレル以上の原油が流出し続けていると言われており、オバマ大統領も対策に重い腰を上げたが、いまだ有効な対策はとれていない。アメリカのルイジアナ州沿岸部に漂着した大量の原油は、沿岸の鳥類をはじめとした野生生物を危険に陥れ、歴史的な環境の変化を引き起こすのではないかと研究者らから警告されている。危機に直面しているのは、アジサシ、アオサギ、シロサギ、カツオドリ、カッシュクペリカンなどの水鳥たちだが、ウミガメや海洋哺乳類にも被害が及ぶ可能性が高い。

【北海道】

●鳴き砂のイタンキ浜を学生らが清掃

北海道室蘭市のイタンキ浜は、鳴き砂で有名な海岸である。近年、イタンキ浜の鳴き砂が油やゴミで汚れて鳴らなくなっており、鳴き砂の音は環境のバロメーターと考えられている。「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」が室蘭工業大学の学生たちや住民に呼びかけて、環境の日に合わせて合同の清掃作業を行った。流木などを含めて30リットルのゴミ袋に210個分のゴミを回収した。

【東北】

●海水浴場、遊水に問題なし 庄内11カ所の水質調査結果

山形県庄内総合支庁が県内の海水浴場の水質検査結果を公表した。その結果、すべての海水浴場で水質に問題はないと判定された。調査は県内の11の海水浴場で、山形県環境化学センターが透明度や油膜の有無、COD、病原性大腸菌O157などを測定した。その結果、水質判定がAAとされたところが9ヶ所、Bが2ヶ所だったが、B判定でも海水浴には問題ないとされた。

【関東】

●川崎でも潮干狩り人気でアサリが枯渇

横浜市の野島海岸や金沢人工浜が潮干狩りのシーズンに人で混雑してアサリなどの海の生き物がなくなる現象が批判を受けているが、川崎市川崎区でも東扇島東公園の人工海浜「かわさきの浜」で潮干狩りを初めて無料で解禁した。その結果、多数の市民がおしかけ、人気を集めた反面、アサリがいなくなるという結果となった。「かわさきの浜」は天然のアサリの自然発生に任せていることもあり、もともとアサリがあまり多くないうえに、多

数の市民が訪れ、「乱獲」したことによってアサリがいなくなったと思われる。川崎市長は再び禁漁にすることも考えていると語っている。

●自民党がマニフェストに導水事業推進

7月に予定されている参議院選挙に向けて、自民党茨城県連は、地方型マニフェストに霞ヶ浦導水事業を推進することを表明した。自民党県連では、「コンクリートは人のため」というスローガンをだして、八ツ場ダムと霞ヶ浦導水事業を推進するとしたもの。

【東海】

●三河湾の生き物の声を聞け 小学生がパフォーマンス

今年10月に生物多様性条約の締約国会議 COP10 が名古屋市で開催される。愛知県蒲郡市の竹島小学校の6年生たちは、5月22日に開かれた COP10 開催の半年前記念行事で海の環境学習の成果をパフォーマンスや合唱で披露した。竹島小学校では、近くの竹島海岸で海辺に棲む生き物の観察や調査を続けてきた。最近では、海が富栄養化してアオサが大量発生する現象を見て学んできた。記念行事のパフォーマンスでは、アオサが腐って腐敗することにより海の生き物が被害を受ける様子を説明し、海を守るために自分たちが行動していくことが必要と呼びかけた。どのような行動をしようとしているか、生徒たちに聞いてみたい。

●羽衣の松が世代交代 600年ぶり？

静岡県の三保の松原の「羽衣の松」の樹勢が衰えてきている。幹に亀裂が生じたり、大気汚染により葉の量も減少してきている。静岡県では、この「羽衣の松」が瀕死の状態であると判断し、今年の秋に現役「羽衣の松」を引退させ、跡継ぎにすぐ近くのクロマツの大木を指定する予定で、すでに跡継ぎの松を柵で囲って代替わりの準備を進めている。世代交代の式典を10月に予定し、毎年羽衣の松の周辺で行われる薪能に合わせて実施する予定である。「羽衣の松」は、羽衣伝説の象徴として観光客に人気の景勝地でもあり、白砂青松と言われた日本の海岸の風景の原型でもあったが、近年の開発と防災事業による砂浜の消失傾向の中で、三保の松原もその例外ではなかった。松林が各地で姿を消しつつあるが、「羽衣の松」が600年以上といわれる寿命をこの時期に終わろうとするのも、この時代のゆがんだ文明のあり方を問いかけているのではないだろうか。

【北陸】

●漁獲量が4年ぶり前年を下回る クラゲの影響？

福井県では、日本各地の漁業とちがって、ここ3年ほど海の漁獲量が前年を上回る成績を上げてきた。しかし、昨年度は1万4309トンと、前年を4年ぶりに下回った。前年に比べて14.9%の減少であった。農水省福井農政事務所によると、原因はいくつかあり、特定しに

くい。エチゼンクラゲの大量発生もその要因の一つだという。魚種別に見ると、スルメイカが27.7%減、ハタハタは85.8%減と資源量そのものの減少も見られている。養殖も種類によって大幅な変動を示し、マダイやワカメの養殖は大幅に増えたのに比し、カキの養殖漁は半分以下に落ち込んでいる。養殖といえども変動が大きくなっている。

●イルカとともに 癒やしの歌コンサート

金沢市在住の歌手吉川ゆきのりさんが、能登島に生息する野生イルカの映像をバックに、オリジナル曲「野生イルカに会う島へ」のコンサートを石川県庁ロビーで公演した。吉川さんは岩の撲滅を訴えるチャリティコンサート「県縦断ありがとうイルカの心コンサート2010」を北國新聞社の後援で展開しており、その中で歌う「野生イルカに会う島へ」は癒しの歌として人気になっている。バックの映像は、吉川さんが撮影隊と共に能登島を訪れ野生イルカの撮影をしたもの。水族館に飼われているイルカの映像は多いが、野生のイルカをバックに歌うコンサート珍しいという。

【近畿】

● 大阪や山口でパレード 生物多様性の日 大切さ訴え

世界生物多様性の日であった5月22日、大阪の御堂筋をジュゴンやウミガメなどさまざまな生き物のぬいぐるみを着た人々がパレードを行った。参加したのは環境問題に取り組む市民団体など10団体と個人。100人以上の人たちが参加し、音楽などを演奏しながら6km



の道のりを行進した。人々の手にするバナーには、辺野古の海とジュゴンを守ろうというもの、上関の原発建設予定地長島の海を守ろうというもの、など、海の生き物に関するものが多かった。実行委員会代表の

松村志保さん（市民団体「モモの家」代表）は、「人間もさまざまな生き物の一つ、共に生きていくことが必要」と話していた。同じ日に山口市では、上関原発の建設反対と長島の海を守れと訴えて、「虹のパレード」が行われた。

●テーブルサンゴの群集復活 田辺市沖島

和歌山県和歌山市の環境団体などが同県田辺市や白浜町のサンゴ群集を調査した。調べたのは、和歌山市のNPO「紀州灘環境保全の会」と全国でサンゴ礁調査を行っている団体「コーラル・ネットワーク」。田辺市の沖島周辺には立派なテーブル珊瑚が発達していたが、2005年冬の異常寒波で激減していた。今回の調査では、テーブル珊瑚の群集が以前の状態にほぼ回復していることが確認された。近くの四双島でオニヒトデの発生があったこともあり、オニヒトデの出現が心配されたが、オニヒトデは発見されなかった。これまで日本最北端のテーブル珊瑚群集として有名だっただけに、その後の回復が心配されていた。

●浜坂サンビーチにハマヒルガオが満開

砂浜海岸の初夏を彩るハマヒルガオが各地で咲き始めた。兵庫県新温泉町の浜坂県民サンビーチでも、ハマヒルガオが満開になっている。今月いっぱいが見頃。ハマヒルガオはヒルガオ科の多年生植物で、耐塩性をもち、砂浜の上部に大群落を形成する普通種であるが、日本各地で砂浜の減少が続くほか、砂浜上部に道路を建設する例が多く、道路改修のたびにハマヒルガオなどの浜辺植生が消えていっている。そのうち、ハマヒルガオも絶滅危惧種に指定される日が来るのではないかと心配されている。

【中四国】

●太田川河口に生物がすみやすい護岸建設

国交相中国地方整備局は、広島市内を流れる太田川の本川河口に、水辺の生物のすみやすさに配慮した堤防護岸を建設することにした。護岸のそばにアサリやチゴガニ、ゴカイ類などが定着できるように、護岸に沿って砂地や潮だまりを作るというもの。広島市中区南吉島2丁目の河口部200mが対象場所。川底のヘドロを砂で覆って、護岸と垂直に10m間隔で長さ10mの石組みの突堤を作り、増水や台風でも砂が流れないようにすると言うもの。生き物のすみかとしても考慮するという。広島県、広島市、中国整備局などが共同で進めている広島湾再生行動計画の一環として行われるらしい。河口にこのような石組みを巡らせるのが、本当の意味で広島湾の再生といえるのかどうか、自然再生にかなう事業かどうか、よく見つめる必要がある。河口の砂は増水や波などによって常に動いているのが本来の姿。それを石組みで動きを止めれば、ヘドロの堆積を促進し、砂の動きを止めて砂浜の消失につながるなど、負の影響も大きいと考えられる。そのあたりの考察が十分できているのだろうか。アサリやチゴガニ、ゴカイ類などはこのような構造物が無くても自然の砂の移動と堆積によって生きていけるものだ。再生という名の自然改変が本当に必要なのだ

ろうか。

●アカウミガメが四国の海岸に今年初上陸

徳島県南陽町大里松原海岸と高知県四万十市の平野海岸で、相次いで今年初めてのアカウミガメが産卵のために上陸した。両海岸ではどちらも5月17日の早朝に確認された。このうち、平野海岸では、産卵も確認した。大里松原海岸のアカウミガメ上陸は昨年より5日遅かった。

●赤い波が襲来 高知県大岐の浜

高知県土佐清水市の大岐の浜は、サーファーが集まる浜として名高いが、ここ1ヶ月ほど浜によせる海の水が真っ赤に染まり、サーファーたちを驚かせている。原因は藻類（夜光虫）の繁殖で、赤潮の一種と見られるが、人体や魚介類に直接的な悪影響はないと見られる。サーファーたちも気味悪がっているものの、かまわずサーフィンを楽しむ人たちも多い。

●なぜか山陰沖でニシンが豊漁

北海道など寒海で獲れるニシンが、なぜか山陰沖の日本海で漁獲量が増え続けている。鳥取県漁協によると、ニシンは2、3年前から底曳き網に掛かりはじめた。一度で数十kgの水揚げがあることが多い。今年5月には一度で500kgも獲った船が出た。浜田港でも3月に計4トンが水揚げされた。ニシンは日本海山陰沖に分布を拡げているという。同漁協によると、ニシンは鳥取県ではこれまでほとんど漁獲されていないし、北海道のものという意識があり、値が付かないため、ほとんどのニシンは沖で捨てられているという。北海道でも最近ニシンの復活が報告されてきている。また、秋田名物のハタハタも最近鳥取県で漁獲が増加しており、ニシンの増加と関係があると見る人もいる。

山陰沖では、地球温暖化による水温の上昇が記録されており、寒海性のニシンの南下がどのような理由によるのかまったく分からないと漁協関係者は頭をかしげている。水産試験場の専門家は、表層とは逆に底層では北からの流れが強まっている可能性もあると見ているが、証拠はなく、これから関心をもって調査することになっている。

●周南市で5年ぶり貝毒発生

山口県は、周南市櫛ヶ浜のアサリから規制値を大幅に超える麻痺性貝毒を検出したと発表した。県の水産振興課によると、毒性の植物プランクトン「アレキサンドリウム・カテネラ」が増殖し、アサリに取り込まれたと見ており、1gあたり4.0MU（マウスユニット）の国の規制値を大幅に超える31.8MUを記録した。櫛ヶ浜でアサリから貝毒が検出されたのは5年ぶりだが、櫛ヶ浜では現在アサリを採取し市場に出す漁業者はおらず、県では一般の人たちにアサリを獲らないように呼びかけている。

●人工の浜で観察会 徳島マリンピア

徳島県東沖洲のマリンピア沖洲の人工海浜で、海の生き物の観察会が開かれ、親子連れら20人ほどが、阿南高専の大田助教の指導で海辺に生きる昆虫のルイスハンミョウやコメツキガニなどの海の生き物を観察しながら、海辺の環境保全を学んだ。

●小豆島で「海の環境教室」開く

香川県小豆島町で、小型船安全協会と小豆島海上保安署が合同で「海の環境教室」を開催、20人ほどの小学生が、講話を聞いたり巡視艇に試乗したりして、海を守ることの大切さと海の安全を学んだ。講話では、地元のボランティアガイドから、家庭排水が海を汚していることや、ゴミが魚の成長を阻害していることなどを学んだ。

●企業社員らが海岸でビーチクリーン活動

愛媛県松山市梅津寺町の梅津寺海水浴場で、企業の社員らがビーチクリーン活動を行った。参加した企業は(株)フジ。企業の環境貢献活動である CRS の一環。

【九州】

●福岡でも ハマヒルガオが満開

福岡県内でも夏日が続く、気温が上昇した5月中旬に、博多湾の浜辺でハマヒルガオが咲き始めた。梅雨入りした6月13日の直前には各地の浜で満開になった。夏を告げる風物詩のハマヒルガオも、徐々に生活の場から追われている。

●120隻が集結 諫早湾堤防早期開門求め海上デモ

民主党の公共事業見直しで、常時開門調査を求められた諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門への対応を迫られていた赤松農水相は、鳩山首相の政権投げだしによる菅政権の誕生と共に辞任。6月中にせまっていた農相の「開門」最終判断が先送りされるかもしれない情勢になってきた。

先月18日には、佐賀、長崎、福岡、熊本の4県漁業者が漁船120隻を連ねて排水門の前で海上デモを行い、宝の海を取り戻そうと早期開門を要求した。海上デモにはこれまで開門に反対だった長崎県の漁協も参加。近くの堤防では開門訴訟を支援する長崎県の市民団体のメンバーらもデモを見守った。

●アオサを堆肥に利用 長崎で産学官の試み

富栄養化した海で大量発生し、海岸に堆積して海底を貧酸素化する海の厄介者の海藻アオサを原料にした有機肥料を、長崎総合大学や漁協などの産学官研究グループが開発し、

販売に乗り出した。「おやじの堆肥」というのが商品名。7.5kg 入りで 450 円で、諫早市などで販売している。アオサによる環境悪化を防ぐことと、有機肥料の開発を兼ねた一石二鳥の試みだが、販売は好調とは言えないようだ。

●ウミガメの産卵地を守ろうと 海岸清掃

鹿児島県屋久島のいなか浜は、ラムサール条約登録地でウミガメの産卵地としても知られている。世界環境デーの 6 月 5 日に合わせて、島内から 200 人以上が参加して、いなか浜の清掃作業が行われた。長さ 1km の砂浜を清掃、ペットボトルなど 2 トンあまりの漂着ゴミを回収した。

いなか浜では、今年すでに 1000 頭以上のウミガメが上陸、そのうち 700 頭が産卵した。漂着ゴミは、量によっては海亀の産卵を阻害することもあり、問題は多い。しかし、小学生を集めて清掃作業を行うだけでは、環境教育の実をあげることは難しい。ペットボトルを使用することの問題点などをしっかり教えながらゴミを拾うことが重要だ。

【沖縄】

●久米島で最大級のサンゴ群落発見

久米島は沖縄島の西に位置する人口 1 万人程度の島である。その久米島の東側の海域で、水深 15~35m の深さに、国内最大規模のサンゴ群落が発見された。サンゴ群落は長さ 300m、幅 200m の規模で、ミドリイシ属の枝状サンゴが優占する。発見したのは、世界自然保護基金 (WWF) ジャパンの調査グループ。被度は 70~80% ときわめて健全なサンゴ礁の基準を保っている。石垣島白保のアオサンゴ群落にも匹敵する貴重なサンゴ群落で、学術的な価値も高い。深い海にこれだけのサンゴ群落が見られるのは、海水の透明度の高さと、赤土などの流入が少ないことを意味している。久米島町長は、「島の貴重な自然があらためて認められた」として、今後持続的な保全を図る考えを示した。

●国定公園を勝手に埋め立て 海ブドウ養殖

国定公園の特別地域に指定されている沖縄県名護市我部平松の塩田跡地 6100 m² を、勝手に埋め立てたとして、名護市屋我地の二人の男が自然公園法違反の疑いで書類送検された。二人は調べに対して「海ぶどうが今後有力な産業になりそうなので、養殖施設を建設しようと思った」と容疑を認めた。今年 1 月に名護警察署の海上パトロールで発見された。

●屋我地島濟井出浜に人工ビーチ建設

沖縄県屋我地島の濟井出浜は、真っ白いサンゴ砂が美しい砂浜 (写真) で知られているが、ここに人工ビーチの建設が進められている。この海岸は、沖縄県が作った「海岸保全基本計画」の中で、「保全」すべき海岸として記載されている。しかし、河川課や港湾課などの

つくる「海岸保全計画」とは、海岸の自然を保全するという意味ではなく、海岸線を波の浸食から守るという意味なので、海岸を「保全」するためにコンクリートで固めるという発想になる。しかし、一昔前のコンクリート一辺倒だったころの施策が批判されたため、今では砂を入れて自然に配慮したと思わせる工法をとる。その一環として、人工ビーチが建設されることになる。沖縄県では、人工ビーチ建設が盛んで、リゾートホテルの前浜は



人工ビーチばかり。すでに 32 ヶ所の人工ビーチが造られている。(写真は新井章吾氏撮影)

済井出浜では、北端の約 5ha を埋め立てて港が作られ、港の泊地と航路の浚渫のために浜の砂がなくなり浸食が進んだ。そのために、今度は人工ビーチで浜を回復させるというの

がこの工事の理由である。

人工ビーチには、慶良間諸島沖の海域から採取される海砂が使われる。サンゴ砂でできた真っ白なきれいな砂が、沖縄各地の人工ビーチで使われている。そのために、莫大な海砂が慶良間諸島沖から採取されてきている。海砂の採取が海の生き物に与える致命的影響は、瀬戸内海や玄界灘などで証明済みである。人工ビーチに入れられる砂は、篩に掛けられて選別され、塩抜きした「死んだ砂」であり、生き物のいない「ビーチ」が作られる。そうして、済井出浜は消滅する。

●「埋め立て事業の即時中止を」 泡瀬干潟で国交相(沖縄担当相)に請願

沖縄県沖縄市の泡瀬干潟埋め立て事業の反対運動を続けている「泡瀬干潟を守る連絡会」は、那覇地方裁判所が「経済的な合理性がない計画」として公金支出の差し止めを認めたものの、沖縄市が合理的な計画をなかなか打ち立てられないまま、一区工事のコンクリート壁が完成し、一区埋め立て地が外の海水との交流を断たれ、一区内にあったコアマモなどの海草藻場がほぼ消滅しつつあることから、5月18日に以下のような要求を前原誠司国交相(沖縄担当相)に提出した。

1. 国は泡瀬埋立事業の「1区中断・2区中止」を改め、「1区2区中止」を表明すること。
2. 国は1区の護岸の一部を早急に撤去し、1区と外海の海水交換を図ること。
3. 国は1区の再生事業のため、自然再生法に基づく「自然再生協議会」を民間主導で早急に発足できるようにすること。そのためにも、私たちが再三要請している1区

- の調査を認めること。
4. 国は泡瀬干潟をラムサール条約登録湿地に選定するよう、沖縄市に働きかけるなど、努力すること。

2. 海の生き物を守る会 現在の活動と予定

●第1回海の生き物を守る講演会・観察会 南紀白浜で

今年度第1回目の「海の生き物を守る会」講演会および観察会を以下の要領で実施します。多くの方の参加をお待ちしています。

講演：「ダーウィンが愛したフジツボ」

講師：倉谷うららさん（海洋生物研究家）

フジツボに魅せられた倉谷さんに、フジツボの魅力を語っていただきます。聞けば聞くほど、フジツボのおもしろさに気づくことでしょう。その後の観察会でもフジツボについて説明していただく予定です。

観察会講師：久保田信さん（京大・准教授）

同時に、京都大学瀬戸臨海実験所の白浜水族館では、日本で本格的なフジツボ類の研究を行った瀬戸臨海実験所の第5代元所長である内海富士夫博士の生誕100年記念の展示を行っています。「海の生き物を守る会」講演会・観察会に参加された方は、白浜水族館の内海富士夫特別展を無料で見ることができます。ふるってご参加ください。

日にち	2010年6月26日（土）
時間	講演会 9:30～10:30, 観察会 10:30～13:00
場所	和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸 講演：京都大学瀬戸臨海実験所（白浜水族館）講義室 観察会：実験所周辺の海岸
参加費	無料
その他	持ってくるもの：長靴もしくは濡れてもよい運動靴など。タオル。水着、水中メガネ、弁当、カメラ、図鑑などは随意。子供も、大人も楽しめます。
お問い合わせ	hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp 向井までお問い合わせください。

海の生き物を守る会 講演会

ダーウインの愛したフジツボたち



海洋生物研究家 倉谷 うらら



とき: 6月26日(土)9:30~10:30
ところ: 白浜町瀬戸 京大瀬戸臨海実験所講義室
参加費: 無料
講演会の後に、海岸で観察会を行います

海の生き物 観察会

海の生き物を守る会の自然観察会に参加しませんか

- とき: 6月26日(土)11:00~13:00
- ところ: 白浜町瀬戸 白浜水族館前海岸
- 解説・指導: 久保田信(京大准教授)
- 参加費: 無料
- 持ち物: 長靴または濡れても良い運動靴、お弁当、カメラ、メモ用紙、図鑑などは必要に応じて
- 観察会の前に講演会(9:30~)があります



●7月は北海道厚岸町 8月は茨城県大洗町で実施

今年第2回の講演会・観察会は、以下の通り予定しています。

とき：7月30日（土）午後 講演会・映写会 ～ 31日（日）午前 観察会（大黒島予定）

ところ：北海道厚岸町アイカップ 北大厚岸臨海実験所

参加費：未定

第3回は、以下の通りの予定です

とき：8月28日（土）11:00～

ところ：茨城県大洗町平磯海岸

参加費：無料

観察会の後、大洗水族館の見学を予定しています。バックヤードの見学もできるかも。

+++++

全国の砂浜海岸生物調査にご協力下さい

多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。ご協力いただける方には、方法と調査報告用紙をメールでお送りいたします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

これまでに会員や非会員のみなさまから寄せられた調査票は66枚、全国46ヶ所の砂浜で調査が行われました。全国の砂浜調査にするには、まだまだ多くの海岸で調査が必要です。最低各県で2-3ヶ所の砂浜を調査し、全国で100ヶ所以上を目指しています。まだ一ヶ所も調査されていない都道府県は以下の通りです。ぜひともみなさまのご協力をお願いします。

岩手県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、東京都、静岡県、岡山県、広島県、富山県、島根県、愛媛県、佐賀県、大分県、長崎県、熊本県、宮崎県。

3. 海の生き物に関する放送などの情報

●海藻の利用

本日6月16日（水）14:05～14:54 の間に5分くらい

NHK総合 お元気ですか日本列島

中海の湖底で多量に繁殖し、放置すると腐って水質を悪化させる寄り藻のオゴノリ等を回収し、肥料として集水域の田畑で肥料と利用する取り組みが放送される予定です。

●ベニクラゲと久保田信さん

NHK BS-ハイビジョンで

6月17日(木) 午前 8:15～ 8:59 #107 クラゲ

NHKBS-2で

6月18日(金) 午後 8:00～ 8:44 #107 クラゲ

●へんな生き物100連発

フジテレビ

ワケありアニマル大図鑑 へんな生き物100連発(第三弾)決定!激レアランキング

6月22日19時から2時間で放映予定

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●アカデミー賞受賞映画「ザ・コーヴ」監督来日講演

イルカから地球環境を考える「海・イルカ・人」Vol. 6

リチャード・オバリー 来日記念 講演会

イルカ —その微笑みの陰で—

『イルカと人間』
リチャード・オバリーが
生涯をかけて
私たちに伝えたいこと。
今夜、すべて語ります。

2010年6月16日(水)

日程： 2010年6月16日(水)

時間： 15:40～受付開始

16:00～18:00 イルカの映像(いろいろ)上映

18:30～19:00 坂野正人 映像とお話

19:00～21:00 リチャード・オバリー 講演、Q&A

会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター「センター棟102号」

〒151-0052 渋谷区、代々木神園町3-1

会場案内 ⇒ <http://nyc.nive.go.jp/facilities/d7.html>

アクセス⇒小田急線 参宮橋下車 徒歩7分、(駅にアクセス案内有り)/地下鉄千代田線 代々木公園駅(C02)下車、(代々木公園方面4番出口)徒歩約10分/京王バス 新宿駅西口(16番)、渋谷駅西口(14番)より代々木5丁目下車すぐ

参加費：無料 (寄付歓迎!) Fax: 0422-22-0312

ご予約方法：FAXに、(1)お名前、(2)ご住所、(3)お電話番号を明記の上、お申込みください
⇒後日、受付担当より「整理番号」をお知らせいたします。こちらが届いた段階で座席が確保(自由席)されたこととなります⇒当日は受付に「お名前」「整理番号」をお伝えいただき、受付を済ませてからご入場ください。

なお、10日~14日まではファックスが通じなくなります。この間の申し込みはメールでお願いします。

主催：エルザ自然保護の会 〒305-8691 茨城県つくば市筑波学園郵便局私書箱2号

協力：CIRCLET、DRUMAGIK

イベント概要：

ドキュメンタリー映画「The Cove」(ザ・コーヴ)で紹介されているように、リチャード(リック)・オバリー氏は、イルカ保護・救済活動を半世紀に渡って続けています。「イルカの救世主」とも呼ばれるオバリー氏を講師に迎え、《人間とイルカの共生の在り方》について、みなさんと一緒に考えるイベントを開催致します。

今、日本では水族館のイルカショー、プールや生簀でイルカと泳げる施設や、イルカに癒しを求める「イルカセラピー」が大人気です。しかし、そこで使われているイルカは、「イルカ猟」の現場で捕獲されたイルカたちです。水族館のイルカの寿命は、野生のイルカより短く、死亡率は高いと言われています。その環境は、イルカたちにとって心地良いものなのでしょうか、水族館のイルカはどのように捕獲されるのでしょうか、「飼育されているイルカ」と「野生のイルカ」には、どんな違いがあるのでしょうか？施設のイルカ、野生のイルカ、両方に長年関わってきたオバリー氏のお話を伺いながら、《人間とイルカのより良い関係》について考えてみませんか？ナビゲーターは、オバリー氏とも親交の深い、映像作家の坂野正人氏が担当いたします。

イベント詳細：

16:00~18:00 イルカ映像上映

タイトル：「水族館のイルカはどこから来るの？」 「日本のイルカ猟」 「オルカ捕獲事件」 「イルカと人間を襲う見えない恐怖ー「水銀」」「ジョジョ海からのメッセージ」 他、ドルフィン&ホエールウォッチング や野生イルカの映像などをご覧ください。

18:30~19:00 坂野正人氏 映像とお話

取材映像を取り混ぜながら、日本のイルカ事情についてお話いただきます。

19:00~21:00 リチャード・オバリー氏 講演・Q&A

Q&Aの時間をたっぷり取る予定です。オバリー氏を囲んで、有意義な意見交換の場にな

れば...と思います。

●『ミツバチの羽音と地球の回転』自主上映会

6月より全国で自主上映会がスタート。秋に劇場公開を予定しています。

人と地域とつながる自主上映会をしよう！ <http://888earth.net/guidance.html>

これまで『ヒバクシャー世界の終わりに』、『六ヶ所村ラブソディー』、『ぶんぶん通信』を全国各地で上映して下さった方たちとつながりながら1人でも多くの方に映画を観ていただきたい。この作品を皆様と一緒に全国各地に広め持続可能を目指す地域の力にしていきたい。皆様の期待に応えられるようスタッフ一同全力で取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

●第54回 海のトークセッション

「漂着物から海ごみ問題へ ～今我々にできること～」

ゲストスピーカー 藤枝 繁（鹿児島大学水産学部准教授）

日本には、黒潮・対馬暖流に乗って南方から様々な漂流物が漂着します。漂着物は、長時間かけて流れ着く、「時間と空間」の旅人です。そんな味わいのあった「漂着物」も、私たちの生活スタイルの変化により、プラスチックを主とする「海ごみ」へと変化してきました。今や大きな海洋環境問題の一つである「海ごみ」の実態を、海洋ゴミの研究をされている藤枝先生にご講演いただきます。

今私たちにできることは何か、一緒に考えてみましょう。

開催日 2010年7月9日（金）19：00～20：30（18：30受付開始）

会場 自然環境情報ひろば 丸の内さえずり館

千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 1F

参加費 800円

申込み OWSホームページより⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#ts54>

●鎌仲ひとみ監督映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会&トーク

■日時：6月19日（土）

一回目 13：00～（開場 12：30、トーク 15：00～）

二回目 16：30～（開場 16：00、トーク 18：30～）

■場所：カフェスロー（国分寺駅南口徒歩5分）

■定員：各回70名

■参加費：2000円（学生1500円、高校生以下1000円／ワンドリンク付き）

■申し込み：ポラン広場東京 <http://www.polano.org/> TEL 0428-22-0821

又はカフェスロー <http://www.cafeslow.com/> TEL 042-401-8505

●「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会 & 田中優と鎌仲ひとみ対談 in 町田
勝楽寺

2010年6月27日(日) 鎌仲ひとみ監督 新ドキュメンタリー映画上映会「ミツバチの羽音と地球の回転」
in 町田 勝楽寺 apバンク相談役 田中優氏と鎌仲ひとみ監督対談 あるべきエネルギーシフトとは？

申込み: jikan_hana@yahoo.co.jp

お名前、A+BかB+CかCのみのいずれか、チケット枚数、
チケット送り先を明記して、メールまたは下記へ電話ください。

問合せ: 080-3254-5722

入場料: 定員 110名 1回目上映=A 対談=B 2回目上映=C

A+BまたはB+C 前売券 1,500円 / 当日券 2,000円

Cのみ 前売券 1,000円 / 当日券 1,500円

※詳しい内容は裏面参照

ミツバチの羽音でも
地球の回転は変えられるか？

元素を調べようと思ったとする。

まず元素を見なければ始まらないのだが、

見るためには光を当てなければ見れない。

元素に光子をぶつけると、大きく軌道がずれる。

見たものは元の形ではない。

そこにあるものを見るためには、

そのものに影響を及ぼさなければ困難なのだ。

すると純粋に客観的に観察する、

ということが困難であることがわかる。逆にいうと、

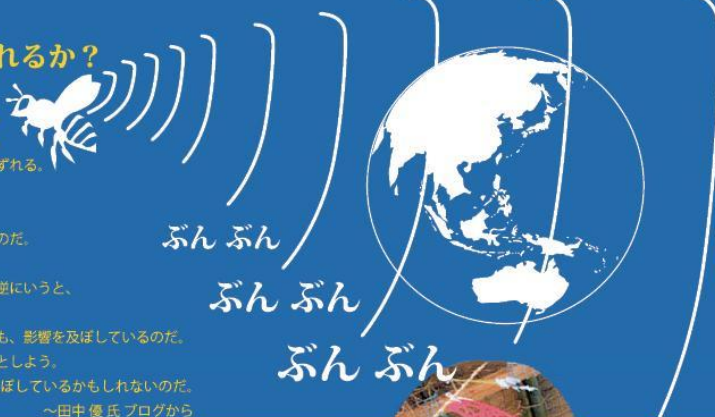
世界にあるどんな小さなことでも、

それはたった一個の元素に対する光子でも、影響を及ぼしているのだ。

たとえばどこかでミツバチの羽音がしたとしよう。

その羽音は、地球の回転にさえ影響を及ぼしているかもしれないのだ。

～田中優氏ブログから



ミツバチの
羽音と
地球の回転

スウェーデン—祝島 エネルギーの未来を切り開く人々

この映画は・・・

日本のエネルギーの最前線、上関原発計画に向き合う祝島の人々と
スウェーデンで持続可能な社会を構築する人々の取り組みの療法を
一本の映画で描いている。

いかにして、自分たちのエネルギーの未来を切り開くのか？

現場からの問いかけは私たちに選択を迫ってくる。

同時に不可能と思われていることを可能にする人間のエネルギーが、
国の違いを越えて交差し新しいビジョンを描き出す。



勝楽寺
町田市原町田 3-5-12

※頭に金の相輪がある
無量寿の塔(9階建)を
めざしてください。

主催: まちだ大福帳 / 時間の花アソシエーション

【鎌仲ひとみ監督プロフィール】 【田中優氏プロフィール】

大学卒業後フリーの助監督としてドキュメンタリーの
現場へ、文化庁助成を受けカナダ国立映画製作所に滞
在し米国などで活躍。1995年帰国後はNHKで医
療、経済、環境をテーマに番組を多数制作。2003
年にドキュメンタリー映画『ヒバクシャ―世界の終わ
りに』を、2006年に『六ヶ所村ラプソディー』を発表。
現在は東京工科大学メディア学部准教授に就きつつ、
映像作家として活動中。著書に『ヒバクシャ―ドキュ
メンタリー映画の現場から』影書房、共著に『内部被
曝の脅威』(ちくま新書)『ドキュメンタリーの力』(子
供の未来社) 他。

地域での脱原発リサイクルの運動を出発点
に、環境、経済、平和などの、さまざまな
NGO活動に関わる。現在「未来バンク事業組
合」理事長、「ap bank」監事、「中間法人天然
住宅」副代表を務める。立教大学大学院、和
光大学大学院、大東文化大学の非常勤講師。
著書(共著含む)に『日本の電気料はなぜ高い』
『戦争をしなくすむ世界をつくる30の方法』
『世界から貧しさをなくす30の方法』(お
カネで世界を変える30の方法)(以上、合
同出版、他多数。

【北陸】

●映画「祝の島」上映会 & 監督と刈羽女性の対話

映画『祝の島』新潟県の3会場で上映 & 監督と刈羽女性の対話。

7月18日(日)

→13:00～ 十日町情報館視聴覚ホール(新潟県十日町市西本町2丁目)

→18:30～ 三条市中央公民館音楽視聴覚室(新潟県三条市元町13-1)

7月19日(月祝)

→13:00～ 長岡市立中央図書館2F 講堂(新潟県長岡市学校町1丁目2番2号)

【近畿】

●瀬戸内海の生物多様性保全のための第4回三学会合同シンポジウム in 京都

瀬戸内海の生物多様性保全のための第4回三学会合同シンポジウム

上関

かみのせき
瀬戸内海の豊かさが
残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場所
で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。こ
こでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態
学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求
める要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。








日時 **2010年7月25日(日) 13:30～16:45**

会場 **京都大学吉田キャンパス**
吉田南4号館1階「4共11」教室 (京都市左京区吉田二本松町)

京阪電車(鴨東線)「丸太町」徒歩10分。バス「京大正門前」下車、吉田キャンパス西門をおり下さい。

参加費:500円(資料代)

●プログラム(13:00会場/13:30開会)

はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」
佐藤正典(鹿児島大学)

講演1 「周防護に残されている瀬戸内海の原風景」
加藤真(京都大学)

講演2 「上関に生息する希少な鳥類について」
飯田知彦(九州大学大学院・日本生態学会)

学会からの要望書の説明
安浜遊地(日本生態学会上関問題要望書アワーケア委員会委員長)
佐藤重徳(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)ほか

コメント 「上関周辺に生息する希少魚類について」
岩田明久(京都大学・日本魚類学会)

コメント 「陸上生物、里山の観点から」
野間直彦(滋賀県立大学)

コメント 「生物多様性条約に基づく国の政策」
国会議員(調整中)

《問い合わせ先》083-928-5496(安浜)、099-285-8169(佐藤)
e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp

主催/日本生態学会 自然保護専門委員会
日本鳥学会 鳥類保護委員会
日本ベントス学会 自然環境保全委員会

後援/日本魚類学会 自然保護委員会
(財)日本自然保護協会
(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン
バードライフ・インターナショナル
ラムサール・ネットワーク日本
生物多様性条約市民ネットワーク



有明海異変，かつての見方と今の見方ー10年前から有明海を見てきた主要研究者からー
14:55-15:35 佐賀大学低平地センターを中心とした”佐賀グループ”による「有明海再生研究」の総括 林 重徳（佐賀大学名誉教授）

15:35-16:15 有明海異変の要因・原因と再生への技術体系 滝川 清（熊本大学教授）

16:25-17:05 有明海異変，海洋学会海洋環境問題委員会の取り組みと漁業問題の視点から
佐々木 克之（海洋学会・海洋環境問題委員会委員，元中央水産研究所）

17:05-17:45 有明海問題のとらえ方：海洋科学の視点と統合的沿岸域管理の立場
松田 治（広島大学名誉教授・瀬戸内海研究会議会議長）

17:45 閉会挨拶（18:00には終了）

詳しくは以下の web ページをご覧ください。 <http://www.ilt.saga-u.ac.jp/>

【沖縄】

●講演会「沖縄のサンゴ礁の現状 —脅かされ続ける生物多様性—」

講師：安部真理子（日本自然保護協会 保護プロジェクト部）

内容：世界のサンゴ礁の多くが危機に直面しています。沖縄のサンゴ礁も 1972 年本土復帰以降に行われてきた数々の開発工事や 1998 年の白化現象やオニヒトデの食害などの影響を受けています。そのような中、健全なサンゴ群集が残っている場所に未だに開発の危機があるという現状に関して生物多様性保全という観点から問題提起したいと思います。

日時： 2010年6月19日 15:00～17:00

場所： 沖縄大学 本館1階 同窓会館

主催： 沖縄環境ネットワーク

共催： 沖縄・生物多様性市民ネットワーク、沖縄リーフチェック研究会

問い合わせ：桑江直哉（090-1362-5706）

懇親会：「安部真理子さんを囲んで語る会」同日 18:00～21:00

場所：杏子屋国場店（那覇市国場 1164-3） TEL 098-835-2245

沖縄大学から徒歩5分

5. 事務局便り：

●この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

●このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。

●このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡

ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

6. 編集後記

6月1日の「うみひろも」配信が都合により欠配となってしまいました。期待していた？向きには、大変失礼しました。1ヶ月ぶりに61号をお届けします。今年も早くも半分が過ぎてしまいました。今年も生物多様性年。秋の多様性条約COP10に向けたさまざまな取り組みが企画されています。海の生き物を守る会でもなにか考えたいところですが、人もお金も時間もありません。来年以降の活動の発展を期して、今年は雌伏の一年になりそうです。ぜひ入会してごいっしょに海の生き物を守る活動に参加して下さい。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第61号

2010年6月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会